

参考資料

魚沼市鳥類目録

執筆：柳瀬 昭彦

1. はじめに

魚沼市に渡来、生息する鳥類の調査の歴史は植物や地質などの分野に比べると極めて浅く、1968年の「越後三山、奥只見自然公園学術調査報告書」における羽田健三他による信州大学教育学部生物教室の「越後三山奥只見の鳥類相」が魚沼市での鳥類調査の嚆矢(こうし)とあってよい。

1950年6月4日に設立された新潟県野鳥愛護会によって、1954年6月19日、20日旧湯之谷村銀山平で探鳥会が開かれ、以後1956年6月23日、24日銀山平、1958年6月7日、8日旧湯之谷村駒の湯、1960年7月8日、9日旧入広瀬村ネズモチ平、1963年6月15日、16日銀山平、1967年7月7日、8日ネズモチ平と1968年の羽田らによる調査以前にすでに北魚沼郡(現魚沼市)内で6回の探鳥会が開かれており、少数の地元の熱心な野鳥愛護者も参加したようであるが、残念ながら調査報告への発展をみなかった。1970年1月、林野庁の手によって全国都道府県が一斉にガンガモ科鳥類の生息状況調査が実施されたのを機に、鳥獣保護運動が一層盛んになり鳥獣保護区設置のための調査が各地で本格的に行われるようになった。

著者は、1972年から北魚沼郡内の鳥類調査をはじめ、小出町成田山鳥獣保護区、越後駒ヶ岳、平ヶ岳の鳥類リストを作成してきた。その後、石部久によって破間川流域の鳥類相、池田修によって佐梨川流域の鳥類の調査報告がなされ、ほぼ北魚沼郡全域の鳥類リストを作成できる状況が整った。そこで今後の分布、生態調査を進展させていくための基礎資料として活用されることを柳瀬が念願し1984年12月「北魚沼郡の鳥類リスト」を発行した。このリストは1987年11月に改版、1995年3月に二訂版を発行して現在に至っている。

このたび魚沼市自然環境保全事業の一環として、2011年の植物相調査に続いて2012年鳥類調査が実施されたのを機に2012年までに旧川口町(現 長岡市)を除く旧北魚沼郡6町村(小出町、堀之内町、湯之谷村、広神村、守門村、入広瀬村)で確認された鳥類の目録を作成することにした。

2. 調査区域と鳥類との関わりからみた地勢

魚沼市を地勢の面からみると、南南西から流れてくる魚野川と北北東から流れ下る破間川の流域を境にして東側と西側とでは極めて対照的である。すなわち、魚野川右岸と破間川左岸とをほぼ直線的に結ぶ「新発田・小出構造線」を境にして、東側では花崗岩や水無川変成岩を主体とした新第三紀の地層があって、おおむね標高2000m前後の越後山脈を形成しているのに対して、西側ではいわゆる魚沼丘陵と呼ばれる標高200~300mの第四紀洪積世の地層となっている点(一部火山活動によってこれよりやや高い鳥屋ヶ峰(旧守門村)のような山稜もある)は、この地域での鳥類相をみる上でも注目しなければならないところである。

一般に魚沼地方は冬期積雪量が多いため、天気予報その他で「山間部」という言葉で呼ばれることがあるが、「新発田・小出構造線」を左右に眺めることの出来る守門山(旧入広瀬村)山頂に立ってみると魚沼丘陵は日本海の海岸に続く砂丘がやや高さを増して構造線まで広がっているという感じが強く、構造線の東側で急激に山地形になっていることが解る。このことは構造線に沿った川や沼、池に飛来する鳥類に冬季を中心に海洋性の種がかなり含まれていることと深い関係がありそうで、今後の研究課題と考えられる。

当地域での局地的な地形変化として人造湖がある。1950年代に相次いで建設された黒又川第一、第二ダムと奥只見地域での奥只見、大鳥ダムがそれである。湖水面の出現により生息魚類もワカサギなどが生息するようになり、それに伴い水辺の鳥の飛来にも変化がみられる。最近では湖底に半ば沈んで枯れた裸木にカワウが繁殖するなどはその代表的なものである。さらにダム周辺に建造物が増え、夏季の人の流入や植生の変化に伴ってスズメやムクドリなど里地に生息する種も分布を拡大する一方、森林性の鳥類の減少など生物全般への生態系の影響はかなり大きいものと思われ、この地域の豊かな自然を保全する課題は深刻な点があると考えられる。

3. 調査区域の鳥類との関わりからみた植生の概観

魚沼丘陵はかつてブナを主体とした落葉樹林に覆われていたと考えられる証拠に、寺社叢にブナの巨木が点在するが、最近の縄文期の遺跡発掘によってトチノキの実の大量貯蔵遺構の出土もあげられる。1982年、小千谷市城の腰遺跡の出土品がその一例である。現在は概ねコナラ、ミズナラやマルバマンサク、ヒメヤシャブシ、リョウブなど多様な雑木低木林とスギの二次林が広がっている。そしてホオジロ、ヒヨドリなど多くの里山の鳥が生息している。河川を中心とした河岸段丘部のほとんどは水田や畑を主体とした農耕地、里地であるが、局地的にみれば開田や河川改修によってヨシ原が戦後大巾に激減したが、里地に生息するスズメ、ツバメ、セキレイ類の生息環境に大きな変化はないものの、オオヨシキリ、托卵鳥のカッコウやヒクイナ、ヨシゴイなどの生息環境は劣化している。

東部の山地でもブナの伐採後、スギの植林を進めた奥只見などの一部で二次林が広がっているが、浅草山麓や奥只見などではブナ林も復活が進んでいる。かつ標高1600m前後の山岳中腹にはブナの原生林も残っているところがあり、その尾根筋にはキタゴヨウ、クロベ、コメツガなどが生えている。魚沼市の最東南部の尾瀬ヶ原から白沢山、平ヶ岳にかけては自然の保護状態がもっともよい所で、また植生も標高1600mから1900mにかけてダケカンバの混生するオオシラビソの亜高山針葉樹林が広がり、日本海側と関東側との中間的な植生となっている。特に平ヶ岳の山頂部にはオオシラビソの美林が発達しておりハイマツ帯もある。このことがカヤクグリやコマドリの生息と結びついている。越後駒ヶ岳の山頂にも狭いながらハイマツが生えていて、少数のコマドリやカヤクグリが生息しており、

駒の小屋付近の岩場にはイワヒバリが生息する。

このように魚沼市は魚野川下流の標高74mから2141mの平ヶ岳まで標高差2067mの間にさまざまな植生分布がみられ、それぞれの植物相と関連して野鳥が「すみわけ」しており、魚沼の自然の豊かで多様な姿を示している。

4. 調査区域の気候と鳥類

魚沼地方は、地球規模からみても有数の豪雪地である。冬の偏西風が運んでくる降雪は山の北西斜面に多く積もり、南東側でやや積雪量が減る。そのため地形的に雪庇が発達し春先、雪崩がおこって山肌がけずられると北西側がなだらかで南東側が急峻な崖地となり、いわゆる非対称山陵が生まれる。守門山の大雪庇は日本でも最大級のものであるが、こうした東側の雪崩によって生まれた急傾斜地は丘陵帯でもみられる。このような雪崩による崩壊地植生が多い魚沼地方は、その植生と結びついて日本特産種の一つ、ノジコが国内の他の地域より高い密度で生息、繁殖している。

山岳地帯の溪流に比較的近い断崖は、豪雪とあいまって人を寄せ付けず、水面から数十mから200mの岩棚には上昇気流を利用して飛翔する天然記念物のイヌワシが生息するが、魚沼市内には数か所の営巣地が知られている。近年、その生態が明らかになる一方、山間地に自動車を入れる林道が開けたことから観察圧力が高まり、保護対策が急務となっている。日本イヌワシ研究会によれば、近年その繁殖成功率は個体群維持をきわめて難しくする状態にしているという。冬季深い雪に覆われる当地方では、地表面の草の種をついばむカワラヒワやホオジロなどは無雪地や少雪の平野部に漂行するとみられ、平野部では留鳥とされる種が魚沼地方では漂鳥とされる種がある。人里に多いスズメも遠くへ移動する個体があるとみられる。冬鳥のカシラダカの例のように雪国では秋と春の渡り鳥となる種も多い。

5. 市内の鳥獣保護区

魚沼市内には県指定の鳥獣保護区が7ヶ所あり、また尾瀬特別保護地区の一部も魚沼市に含まれる。

平成23年(2011)の新潟県鳥獣保護区等位置図(新潟県民生活・環境部環境企画課)によれば魚沼市内の県指定鳥獣保護区は尾瀬の特別保護地区を含めると次の8箇所です。約49,500haという県内一の広さを占めている。

1. 守門(森林鳥獣生息地)一部三条市	3,725ha
2. 御嶽山(身近な鳥獣生息地)	484ha
3. 成田山(森林鳥獣生息地)	302ha
4. 権現堂(森林鳥獣生息地)	725ha
5. 浅草岳(森林鳥獣生息地)	1,321ha
6. 湯之谷奥只見湖(大規模生息地)	38,128ha
7. 尾瀬特別保護地域	322ha
8. 越後三山(森林鳥獣生息地)一部南魚沼市	4,515ha

このうち特別保護地区は一般の保護区のように狩猟が禁止されているだけでなく、樹木の伐採などの自然を破壊する行為はすべて禁止されている。国立・国定公園にあつてはさらに植物の採取、土石の採取も禁止されている。これらの保護区が絶滅危惧種はいうまでもなく、市内に生息する鳥類の保護に果たす役割は極めて大きいものがあるが、さらに継続的に保護区の設定期間を延長して魚沼市の鳥類にとどまらず、他の動物や植物の保全、保護に活かしていきたいものである。

6. 魚沼市における絶滅危惧鳥類

平成13年(2001)新潟県は「レッドデータブックにいがた」を発行した。そこで選定された種はE W(野生絶滅)1種、E N(絶滅危惧Ⅰ類)5種、V U(絶滅危惧Ⅱ類)10種、N T(準絶滅危惧)34種、L P(地域個体群)1種の計51種である。そのうち魚沼市で該当する種は次の34種である。

●E N(絶滅危惧Ⅰ類：絶滅の危機に瀕している種)4種

オジロワシ、オオワシ、クマタカ、イヌワシ

●V U(絶滅危惧Ⅱ類：絶滅の危険が増大している種)6種

ミゾゴイ、オオタカ、ヒクイナ、ブッポウソウ、チゴモズ、アカモズ

●N T(準絶滅危惧：存在基盤が脆弱な種)24種

チュウサギ、オオヒシクイ、トモエガモ、ヨシガモ、シノリガモ、ホオジロガモ、ミサゴ、ハチクマ、ツミ、ハイタカ、チュウヒ、ハヤブサ、オオジシギ、コアジサシ、コノハズク、オオコノハズク、アオバズク、ヨタカ、ヤマセミ、サンショウクイ、コサメビタキ、サンコウチョウ、キバシリ、ノジコ

これら34種のうち魚沼市内ではすでに絶滅したとみられる種はヒクイナ、ブッポウソウ、

アカモズ、コアジサシの4種で、また生息数が少ない、夜行性などの理由でほとんど観察例のない種としてオオワシ、ミゾゴイ、ヨタカなどがあり、今後慎重に観察の継続が望まれる。

一方、県のレッドデータ選定にあたって他県では絶滅に近いことから新潟県内では比較的数量的に多いものの、NTと判定された種としてサンショウクイとノジコが挙げられる。この2種は県内でも魚沼地域は生息密度が高く、特に日本特産種のノジコは魚沼を代表する夏鳥といえる。さらに越後山脈の山麓は天然記念物のイヌワシが数つがい繁殖しており、食物連鎖の頂点に立つこの種の生息はこの地域の自然の豊かさの証左として後世に大切に残す使命が市民に課せられているというべきであろう。

新潟県内で平野部の湿地帯のヨシ原では今なお生息しているヨシゴイのようにレッドデータには選定されなかったものの、魚沼では河川改修や開田によってヨシ原が激減したため、ほぼ絶滅したと考えられる種もある。いずれにしても、この魚沼という多様性に富んだ地域の貴重な鳥類を継続的に調査、観察を続けて、市の貴重な財産として後世に大切に保存していくことが市民にとっても重要な課題といえよう。



図3-12 ミサゴ科 ミサゴ
営巣のようす
写真提供：本田 智明

魚沼市の鳥類目録

目録の見方

1. 分類方法

目録の分類は、「日本鳥類目録改訂第7版」(日本鳥学会2012)によった。
種名は和名、学名の順に記載した。

2. 区分

区分表記は、魚沼市におけるその鳥の代表的な生息形態を表したものである。

留鳥：一年を通して魚沼市に生息している鳥。

夏鳥：春になると南方から渡来して、秋に渡去する鳥。市内で営巣、卵、巣立ち直後の幼鳥のいずれかを確認した種についてのみ(繁殖)と記した。

冬鳥：秋に北方から渡来して越冬し、春に渡去する鳥。

旅鳥：春と秋の渡りの時期に魚沼市内に立ち寄る鳥。

迷鳥：魚沼市でまれに観察された鳥。

3. 解説

解説文のデータは確認場所、確認年月日(西暦)、羽数(正確な記録のあるもののみ)を記し、必要に応じて文献を記した。

4. 地名表記について

市町村合併に伴い、旧町村名を小出、湯之谷、堀之内、広神、守門、入広瀬のように記し、正確に地名の知られている種は字名も記した。

5. その他

(1) コジュケイは、観察記録があるが、自然分布域と大きく異なるため移入種として目録には記さなかった。

(2) トキについては観察記録があるが、佐渡で放鳥後の不安定な時期の漂行という判断から目録には記さなかった。

(3) ヤマシギを駒ヶ岳登山道脇の湿地で夏季見たという一例はなお今後の観察をまって目録に加えたい。

(4) 1996年2月小出橋下流でオオハムらしい種がみられたが、今後なおシロエリオオハムとの識別を期したい。

魚沼市の鳥類目録

○キジ目 GALLIFORMES

キジ科 PHASIANIDAE

1. ヤマドリ *Syrnaticus soemmerringii* (留鳥・繁殖)
亜種ヤマドリ (*S. s. cintillans*) は市内里山の山地で繁殖しているが近年減少傾向にある。
2. キジ *Phasianus colchicus* (留鳥・繁殖)
亜種キジ (*P. c. robustipes*) は休猟区を中心に放鳥された個体が生息している。

○カモ目 ANSERIFORMES

カモ科 ANATIDAE

3. ヒシクイ *Anser fabalis* (冬鳥)
県内に渡来するガン類中、最も数の多いのが亜種オオヒシクイ (*A. f. middendorffii*) であるが、そのうちの6羽が1995年1月16日小出・青島の魚野川に飛来した。
4. コハクチョウ *Cygnus columbianus* (冬鳥)
亜種コハクチョウ (*C. C. jankowskyi*) が県内各地の湖沼、河川に渡来する。2008年1月13日にはその数16278羽にのぼった。(野鳥新瀉141)しかし魚沼に飛来するコハクチョウはオオハクチョウより少ない。
5. オオハクチョウ *Cygnus cygnus* (冬鳥)
冬季平野部に渡来したものの一部が魚野川に飛来する。県内ではコハクチョウが圧倒的に多いが魚野川にはオオハクチョウの観察数が多いという特徴がある。
6. オンドリ *Aix galericulata* (留鳥・繁殖)
山間部の河川、溪流やダム湖などに生息し、周辺の大木の洞などに営巢している。冬季には魚野川などの中流河川に姿をみせる。

7. オカヨシガモ *Anas strepera* (冬鳥)
小千谷市の山本山調整池ではまとまった数(100羽(+))がみられることがあり、魚野川にも数羽で飛来する。
8. ヨシガモ *Anas falcate* (冬鳥)
冬鳥として県内の湖沼や河川に渡来し、長岡市の信濃川には50～120羽がみられる。市内ではまれ。
9. ヒドリガモ *Anas Penelope* (冬鳥)
魚野川などに少数飛来する。
10. アメリカヒドリ *Anas Americana* (冬鳥)
冬鳥として県内に少数飛来するが、市内では2010年5月30日1羽観察した。
11. マガモ *Anas platyrhynchos* (冬鳥・繁殖)
市内の河川、湖沼などに普通に渡来する。夏季にも少数が見られ尾瀬で繁殖している。
12. カルガモ *Anas poecilorhyncha* (留鳥・繁殖)
市内の湖沼、河川、水田など水辺に生息し、繁殖している。
13. ハシビロガモ *Anas clypeata* (冬鳥)
小千谷市の山本山調整池に比較的多いが、錦鯉をあげて水の浅くなった池に数羽単位で来る他、魚野川でもみられる。
14. オナガガモ *Anas acuta* (冬鳥)
瓢湖などにおびただしい数が渡来する。市内でもよくみられる。
15. シマアジ *Anas clypeata* (冬鳥)
旅鳥として春、秋に飛来するが数は少ない。魚沼市ではまれ。
2006年4月9日魚野川青島大橋上流で雄1羽が観察された。
16. トモエガモ *Anas Formosa* (冬鳥)
県内の湖沼に少数渡来するが、魚野川でもまれに見ることがある。

17. コガモ *Anas crecca* (冬鳥)
 亜種コガモ (*A. c. crecca*) が冬鳥として市内の湖沼、河川に渡来するが、北へ帰るのは他のカモより遅い。亜種アメリカコガモ (*A. c. carolinensis*) が1985年1月16日魚野川でみられた。
18. ホシハジロ *Aythya ferina* (冬鳥)
 魚野川右岸の水の流れのはやい所へ数羽で群れる。1993年から増えている。
19. キンクロハジロ *Aythya fuligula* (冬鳥)
 冬鳥として河川に渡来する。1983年11月3日に小出・青島の山林中の田麦平の池で観察されたことがある。
20. スズガモ *Aythya marila* (冬鳥)
 海域に多い冬鳥だがまれに市内のダム湖や河川にみられる。
21. シノリガモ *Histrionicus histrionicus* (冬鳥)
 小出・魚野川で1983年1月5日7羽の観察例があるが、まれな冬鳥。
22. ホオジロガモ *Bucephala clangula* (冬鳥)
 魚野川で観察例があるが、まれな冬鳥。
23. ミコアイサ *Mergus albellus* (冬鳥)
 平野部のカモ渡来地(佐潟他)でよくみられるが、魚野川でも堀之内竜光付近の魚野川などで定期的にみられる。
24. カワアイサ *Mergus merganser* (冬鳥)
 長岡市川口の信濃川合流点から上流に多く見られる冬鳥。夏季、山地の溪流やダムにとどまる個体がいる。

○カイツブリ目 PODICIPEDIFORMES

カイツブリ科 PODICIPEDIDAE

25. カイツブリ *Tachybatus ruficollis* (留鳥・繁殖)
 夏季、山間地のため池などで少数繁殖する。冬季、市内の各河川で少群をつくる。
26. アカエリカイツブリ *Podiceps grisegena* (冬鳥)
 冬季、魚野川に少数飛来するが、まれ。

27. カンムリカイツブリ *Podiceps cristatus* (冬鳥)
冬季、魚野川に少数飛来するが、まれ。

28. ミミカイツブリ *Podiceps auritus*
冬季、魚野川に飛来するが、まれ。他に大倉沢ダム。

29. ハジロカイツブリ *Podiceps nigricollis* (冬鳥)
冬季、魚野川に飛来するが、まれ。

ハト科 COLUMBIDAE

30. キジバト *Streptopelia orientalis* (留鳥・繁殖)
山地から市街地まで普通に生息し繁殖している。冬季は数が少なくなる。

31. アオバト *Sphenurus sieboldii* (夏鳥)
夏鳥として低山帯に渡来する。春と秋の渡りの時期には数羽の群れで移動する。

○アビ目 GAVIIFORMES

アビ科 GAVIIDAE

32. シロエリオオハム *Gavia pacifica* (迷鳥)
守門で1996年2月26日、1羽が観察された。2008年2月上旬にも一例。

○ミズナギドリ目 PROCELLARIIFORMES

ミズナギドリ科 PROCELLARIIDAE

33. シロハラミズナギドリ *Pterodroma hypoleuca* (迷鳥)
台風の影響などを受けて内陸(小出)まで迷行したという記録がある。(野鳥新潟105)

34. オオミズナギドリ *Calonectris lecomelas* (迷鳥)
県内の海上では普通だが冬季に海が荒れた時、迷行。
1979年11月11日、1994年1月1日いずれも小出 魚野川。

○カツオドリ目 SULIFORMES

ウ科 PHALACROCORACIDAE

35. カワウ *Phalacrocorax carbo* (留鳥・繁殖)

1980年頃から増加し始め、年や季節によって増減はあるが、多い時は魚野川に500羽ぐらい飛来することがある。琵琶湖起源の標識個体が魚野川で確認され(野鳥新潟139)、最近は奥只見湖岸で繁殖するなど分布を広げている。

○ペリカン目 PELECANIFORMES

サギ科 ARDEIDAE

36. ヨシゴイ *Ixobrychus sinensis* (夏鳥・繁殖?)

県内各地で繁殖していたが(小出 魚野川1987)最近個体数が激減し、魚野川では姿がみられなくなった。

37. ミゾゴイ *Gorsachius goisagi* (夏鳥)

長岡市の西山で繁殖の記録があるが、まれ。広神で1984年4月衰弱個体が保護された(小出保健所)。湯之谷で観察例があるが、詳しい生息地は不明である。

38. ゴイサギ *Nycticorax nycticorax* (留鳥・夏鳥・繁殖)

最近まで小出の干溝のアオサギのコロニーで混群となって繁殖していたが現在(2012年)はどこかへ移動したとみられる。1975年1月小出・佐梨の円福寺の森に80羽(+)いたことがあった。

39. ササゴイ *Butorides striatus* (夏鳥)

秋季、魚野川やダム畔で少数観察されるが、移動個体とみられる。1986年5月14日堀之内、田川で幼鳥1羽。

40. アマサギ *Bubulcus ibis* (夏鳥・魚沼では旅鳥)

県内の平野部では繁殖しているが、魚沼市内では春と秋の移動途中の小群が水田で採餌するのが観察されている。

41. アオサギ *Ardea cinerea* (留鳥・繁殖)

小出・干溝の杉林にコロニーがあり1994年には10(+)で巣だったが、2000年頃には200巣を超える県内で有数のコロニーとなった。その後、南魚沼市にも分布を広げたが、2011年にはコロニーは消滅し、小出の清水川辺神

社などにコロニーを作った。このようなコロニーが移動する現象は長岡市でもみられるが、原因は不明である。

- 4 2. ダイサギ *Egretta alba* (冬鳥)
秋季、冬季に河川で観察されているが、近年個体数が増加傾向にある。
- 4 3. チュウサギ *Egretta intermedia* (夏鳥・魚沼では旅鳥)
県内に夏鳥として渡来し、コサギ群に混じるがまれ。
- 4 4. コサギ *Egretta garzetta* (旅鳥)
1990年代には秋季から早春にかけて川や水田に渡来し、90羽ぐらいの群もみられたが近年は観察されない。

○ツル目

クイナ科 PALLIDAE

- 4 5. クイナ *Rallus aquaticus* (冬鳥)
冬鳥として河畔に渡来するが、まれ。1991年4月5日小出・青島。
- 4 6. ヒクイナ *Porzana fusca* (夏鳥・繁殖)
湿地や水田でみられたが1960年代以降急速に減少し、最近では生息を示す情報は全くない。市内では絶滅か？
- 4 7. バン *Gallinula chloropus* (旅鳥)
県内平野部では留鳥として繁殖例もあり越冬個体もあるが、市内では春季、魚野川や池でみられるのは旅鳥とってよい。
- 4 8. オオバン *Fulica atra* (旅鳥)
平野部の湖沼では周年見られるが、市内では通過個体とみられ旅鳥とってよい。2002年11月魚野川小出橋上流で1羽が観察された。

○カッコウ目 CUCULIFORMES

カッコウ科 CUCULIDAE

- 4 9. ジュウイチ *Cuculus fugax* (夏鳥)
標高1000m付近の山地に多い。春の渡りは夜も鳴いて丘陵を通過する。

50. ホトトギス *Cuculus poliocephalus* (夏鳥)

垂直分布は広く、低山帯から山地にかけて渡来する。

51. ツツドリ *Cuculus saturates* (夏鳥)

カッコウ科では一番早く4月下旬に渡来する。低山帯に生息する。

52. カッコウ *Cuculus canorus* (夏鳥)

以前は里地のヨシ原などオオヨシキリの営巣地付近でよく鳴いていたが、近年は姿をみせない。市内では奥只見などやや標高の高い開けた所で生息するが、数は減っている。

○ヨタカ目 CAPRIMULGIFORMES

ヨタカ科 CAPRIMULGIDAE

53. ヨタカ *Caprimulgus indicus* (夏鳥)

夏鳥として低山帯から山地に渡来する。以前は小出・青島など里山でもよく聞かれたが、近年はシルバーラインの泣沢、駒の湯、五味沢などに生息する。

○アマツバメ目 APODIFORMES

アマツバメ科 APODIDAE

54. ハリオアマツバメ *Hirundapus caudocutus* (夏鳥)

雨模様の時、上空をよく飛ぶ。繁殖は確かめられていない。

55. アマツバメ *Apus pacificus* (夏鳥)

佐渡島、粟島、火打山などの岩場で繁殖が知られているが、市内では繁殖は確かめられていない。

○チドリ目 CHARADRIIFORMES

チドリ科 CHARADRIIDAE

56. タゲリ *Vanellus vanellus* (冬鳥)

冬鳥として雪の消えている水田に飛来するが、数は少ない。

57. ケリ *Vanellus cinereus* (旅鳥)

1991年9月12日小出・青島(桑原)

58. イカルチドリ *Charadrius placidus* (留鳥?・繁殖)
魚野川のような中・上流域の河川の中州などに周年観察される。近年やや
個体数が増えている?

59. コチドリ *Charadrius dubius* (夏鳥・繁殖)
市内各地の河川荒地、スキー場などに夏鳥として渡来していたが近年姿を
みかけなくなった。

シギ科 SCOLOPACIDAE

60. アオシギ *Gallinago solitaria* (冬鳥)
まれな冬鳥として山間地の溪流に飛来する。市内では佐梨川の葎沢ダムで
1983年2月20日、1985年2月～3月観察された。

61. オオジシギ *Gallinago hardwickii* (夏鳥・繁殖)
春の渡りの時期に河畔でまれに姿をみることがある。市内尾瀬ヶ原では繁
殖している。

62. タシギ *Gallinago gallinago* (冬鳥)
雪の積もらない河畔や水田に冬鳥として渡来するが、近年数が少なくなっ
ている。

63. オオソリハシシギ *Limosa lapponica* (旅鳥)
1988年5月14日～15日、小出・魚野川で観察された。

64. ツルシギ *Tringa erythropus* (旅鳥)
春季、魚野川の中州でみることがあるが、秋季の観察例もある。
(1984年9月15日)

65. アオアシシギ *Tringa nebularia* (旅鳥)
旅鳥として春と秋の渡りの時期に魚野川の中州に姿をみせる。

66. クサシギ *Tringa ochropus* (旅鳥)
冬季や渡りの季節に魚野川でみられるが、数は少ない。

67. キアシシギ *Heteroscelus preripes* (旅鳥)
5月上旬に魚野川へ渡りの途中飛来する。シギ科の旅鳥の中でもっとも数が多くみられる。秋の渡りは数が少ない。
68. イソシギ *Actitis hypoleucos* (夏鳥・留鳥?)
周年観察されるが、冬は数が少ない。広く市内に分布し、奥只見湖にも生息する。
69. トウネン *Calidris ruficollis* (旅鳥)
秋季、渡りの途中魚野川に来るがまれ。2012年8月31日3羽。
70. ハマシギ *Calidris alpina* (冬鳥)
冬季、魚野川に数10羽の群れが時折みられる。
71. アカエリヒレアシシギ *Phalaropus lobatus* (旅鳥)
渡りの時期には沖合海上を通過していくが、内陸部の河川や湖沼にもしばしば飛来する。飛来数には大きな変動があり、春の渡りの時期には大群をみることがある。1984年5月3日～4日魚野川や奥只見湖で数多く観察された。
72. ハイロヒレアシシギ *Phalaropus fulicarius* (迷鳥)
旅鳥として海上を渡るため内陸部への飛来はまれ。新潟県内の観察例も少ない。2012年4月23日魚野川・新柳生橋上流で夏羽へ換羽途中の1羽が観察された。

カモメ科 LARIDAE

73. ユリカモメ *Larus ridibundus* (冬鳥)
秋から翌春まで魚野川に飛来するが、特に冬型の気圧配置によって海が荒れている日は数が多い。春の北上期(5月上旬)頃にもよくみられる。
74. ウミネコ *Larus crassirostris* (冬鳥)
粟島などで繁殖しているが、市内では冬季まれに飛来する他、台風などで海の荒れた時、魚野川に飛来することがある。

75. カモメ *Larus canus* (冬鳥)
厳冬期、魚野川に飛来するユリカモメの群れの中に1~2羽混じることがある。

76. セグロカモメ *Larus argentatus* (冬鳥)
厳冬期、ユリカモメの群れの中に2~3羽混じって飛来することがある。

77. オオセグロカモメ *Larus schistisagus* (冬鳥)
厳冬期、魚野川にまれに飛来する。

78. コアジサシ *Sterna albifrons* (夏鳥・繁殖)
夏鳥として渡来し、小出魚野川の中州に約30巣のコロニーを作った年もあったが、全国的に繁殖は不安定で市内では近年全く姿をみない。

79. アジサシ *Sterna hirundo* (旅鳥)
亜種アジサシ(*S. h. longipennis*)は渡りの時、数羽みられるが、まれ。小出・魚野川。

トウゾクカモメ科 STERCORARIIDAE

80. シロハラトウゾクカモメ *Stercorarius longicaudus* (迷鳥)
1993年6月9日若鳥1羽が小出。羽根川で捨得され、千葉晃によって本県初認と写真判定された。(写真は小沢文雄)

ウミスズメ科 ALCIDAE

81. ウミスズメ *Synthliboramphus antiquus* (迷鳥)
冬鳥であるが、市内では1982年1月守門で観察された一例のみ。海の荒れで迷行したとみられる。

○タカ目 FALCONIFORMES

ミサゴ科 PANDIONIDAE

82. ミサゴ *Pandion haliaetus* (留鳥?・繁殖)
ダム湖畔の樹木で営巣する。冬季の観察例は少ない。

タカ科 ACCIPITRIDAS

83. ハチクマ *Pernis apivorus* (夏鳥・繁殖)
春と秋の渡りの時期にまとまって移動するのが観察される。9月には小千谷市山本山では特に数多く南下する。夏季、魚沼各地の山地でみられる。
84. トビ *Milvus migrans* (留鳥・繁殖)
市内各地でごく普通にみられる。
85. オジロワシ *Haliaeetus albicilla* (冬鳥)
冬季・奥只見ダムや小出の大浦新田、魚野川の河畔林などに数羽、姿をみせる。
86. オオワシ *Haliaeetus pelagicus* (冬鳥)
冬季奥只見湖に姿をみせることがある。1990年2月8日大浦、1991年12月14日小出・魚野川
87. チュウヒ *Circus spilonotus* (冬鳥)
冬鳥として飛来し、ヨシ原のある広い湿地などに住むため魚沼市ではまれ。2004年3月25日魚野川の佐梨川合流付近で1羽観察された。
88. ツミ *Accipiter gularis* (夏鳥)
海岸部の林で繁殖記録があるが、市内では秋の渡りの時期の観察例が多い。
89. ハイタカ *Accipiter nusus* (夏鳥)
銀山平などで観察例があるが、詳しいことは不明である。秋の渡りでは魚沼丘陵の上空でみられる。
90. オオタカ *Accipiter gentilis* (留鳥・繁殖)
亜種オオタカ (*A. g. fujiyamae*) は県内海岸部の松林で繁殖しているが、内陸部でも繁殖しており、黒又川の支流、上イモリ沢では毎年繁殖している。近年観察例が増加傾向にある。
91. サシバ *Butastur indicus* (夏鳥・繁殖)
4月中旬頃渡来し、里山から山地の林で繁殖する。近年谷地田の減少で餌が減っているのか観察例が減る傾向にある。しかし、秋の渡り(9月)には魚沼丘陵上を数多く通過する。

92. ノスリ *Buteo buteo* (留鳥・繁殖)
 県内に広く生息するが入広瀬、湯之谷の山地で繁殖記録がある。秋に魚沼丘陵の上を渡るが平野部では冬季も観察される。
93. ケアシノスリ *Buteo lagopus* (冬鳥)
 数少ない冬鳥として県内では主に平野部に飛来する。2008年2月堀之内と川口との境界に近い魚野川で観察された。この年1月から3月は各地でケアシノスリが多く観察された。
94. イヌワシ *Aquila chrysaetos* (留鳥・繁殖)
 天然記念物の種であるとともに越後山脈の中腹部は日本でも生息数が多い。崖地の岩棚や大木の枝に営巣し、繁殖している。(平ヶ岳、越後駒ヶ岳、未丈岳、守門山浅草岳、内檜岳)2002年10月23日、滋賀県でウイングマーカを施した若い個体が奥只見に飛来したことがあり、雌と判定されたこの個体は2003年11月雄と推定される個体とペアで共同探餌、ディスプレイなどが確認されており、近親交配による種の劣化を防ぐ上からも注目された。秋冬季にはなわばりを追われたと思われる種が小出、湯之谷、小千谷市などの里山で観察されたり、養鯉池のネットにかかって保護されたり幼鳥の死体がみつかったりする。
95. クマタカ *Spizaetus nipalensis* (留鳥)
 県境に連なる奥只見地区から水無川流域までの森林で繁殖している。近年繁殖の確認例が増加している。

○フクロウ目 STRIGIFORMES

フクロウ科 STRIGIDAE

96. オオコノハズク *Otus lempiji* (留鳥・漂鳥)
 亜種オオコノハズク (*O. l. semitorqus*) が1988年1月31日小出・佐梨で保護された。1980年1月守門の雪の中死体でみつまっている。2012年1月12日堀之内で確認。
97. コノハズク *Otus scops* (夏鳥)
 夏季、未丈ヶ岳麓によく茂ったブナ林に生息する。昼鳴くこともある。守門山(八十里越)浅草岳など。

98. フクロウ *Strix uralensis* (留鳥・繁殖)
周年生息し、2月頃から夜鳴くが、数は多くないと思われる。

99. アオバズク *Ninox scutulata* (夏鳥・繁殖)
青葉の季節に渡来して夜よく鳴く。晩夏にもよく鳴く。

100. トラフズク *Asio otus* (留鳥)
湯之谷の大沢など数例観察されているが、繁殖については不明。

101. コミミズク *Asio flammeus* (冬鳥)
10月頃渡来し、稲刈り後の水田などに生息する。湯之谷・井口新田など三例。(石部)

○ブッポウソウ目 CORACIIFORMES

ヤツガシラ科 UPUPIDAE

102. ヤツガシラ *Upupa epops* (旅鳥)
2012年4月13日魚沼市佐梨で確認。冠羽1枚を捨得。

カワセミ科 ALCEDINIDAE

103. アカショウビン *Halcyon coromanda* (夏鳥)
夏鳥として5月下旬頃渡来し、市内各地で繁殖するが、山地の森(五味沢、駒の湯、干溝など)でよく声を聞く。渡りの時期、魚沼丘陵にも立ち寄る。

104. ヤマショウビン *Halcyon pileata* (迷鳥)
渡りの時期にまれに飛来し、市内では1986年7月16～17日湯之谷で観察された。

105. カワセミ *Alcedo atthis* (留鳥・繁殖)
川沿いの1mほどの崖地に営巣する。河川改修で河畔の営巣適地が減少し、餌場からやや遠い場所で営巣するケースが増えている。川沿いの農地の崖など。

106. ヤマセミ *Ceryle lugubris* (留鳥・繁殖)
河川の上流域の3m以上の崖に穴を掘って繁殖する。堀之内、根小屋の川の崖地で繁殖していたが、高速道路が出来て餌取り場所の魚野川との往来が難しくなってから繁殖しなくなった。広神や湯之谷に営巣の痕跡がある。

冬季、魚野川でみることがある。

ブッポウソウ科 CORACIIDAE

107. ブッポウソウ *Eurystomus orientalis* (夏鳥)

入広瀬大白川のブナ林で近年まで繁殖していたが、現在は市内では絶滅か？かつての営巣地は守門山、浅草岳、奥只見などのよく茂ったブナ林である。2012年6月12日小出スキー場脇の杉林に1羽飛来したが、定着しなかった。

○キツツキ目 PICIFORMES

キツツキ科 PICIDAE

108. アリスイ *Jynx torquilla* (旅鳥)

数少ない旅鳥として春と秋に平野部で観察される。2008年8月25日魚野川・新柳生橋下流で1羽が観察された。

109. コゲラ *Dendrocopos kizuki* (留鳥・繁殖)

低山帯に分布する。近年やや増加傾向にある。

110. オオアカゲラ *Dendrocopos leucotos* (留鳥)

山地の森林に生息するが、アカゲラより数は少ない。奥只見での観察例が多い。

111. アカゲラ *Dendrocopos major* (留鳥・繁殖)

山地の森林で繁殖するが、冬季は里地にも移動してくる。

112. アオゲラ *Picus awokera* (留鳥・繁殖)

日本の特産種で市内でも普通に生息している。

ハヤブサ科 FALCONIDAE

113. チョウゲンボウ *Falco tinnunculus* (留鳥・繁殖)

上越新幹線浦佐駅南方の高架上で繁殖例がある。市内では観察例は比較的多いが、営巣は確認していない。

114. コチョウゲンボウ *Falco columbarius* (冬鳥)

観察例まれな種。1991年3月18日小出・青島。1992年1月15日小出・岡新田。

115. チゴハヤブサ *Falco subbuteo* (旅鳥)
秋季、魚沼丘陵上を南へ渡るが、数は少ない。1990年1月21日堀之内・大石。

116. ハヤブサ *Falco peregrinus* (留鳥・繁殖)
亜種ハヤブサ (*F. p. japonensis*) は岩棚のノスリの古巣などを利用して繁殖している例がある。魚野川の上空で夕暮れにコウモリが飛ぶと捕食することがあり、周年観察される。

○スズメ目 PASSERIFORMES

サンショウクイ科 CAMPEPHAGIDAE

117. サンショウクイ *Pericrocotus divaricatus* (夏鳥)
環境庁カテゴリーでは絶滅危惧Ⅱ類であり、千葉県などでは絶滅といわれている。新潟県カテゴリーでは準絶滅危惧種でやはり減少傾向にあるが、魚沼市内では以前と変わらないとみられる。

カササギヒタキ科 MONARCHIDAE

118. サンコウチョウ *Terpsiphone atrocaudata* (夏鳥)
夏鳥として低山帯に渡来する。生息環境としてはスギとホオノキの混交林を好んでいる印象がある。近年減少傾向が伝えられているが、市内では安定的に飛来する。

モズ科 LANIIDAE

119. チゴモズ *Lanius tigrinus* (夏鳥・繁殖)
近年減少が目立つ夏鳥とされるが、当市内では少数ながら安定した観察記録がある。渡ってくるのは遅い(2012年5月14日)。小出スキー場ではよく観察され2つがいが生息する。

120. モズ *Lanius bucephalus* (留鳥・繁殖)
低山から山地にかけて繁殖する。秋季、高鳴きをしたり「モズのはやにえ」をする時期は目立つ。

121. アカモズ *Lanius cristatus* (夏鳥)
夏鳥であるが数は少なく、市内では1981年7月守門での観察例と奥只見での一例のみである。

- 1 2 2. オオモズ *Lanius excubitor* (迷鳥?)
冬鳥であるが、県内の観察例はいずれも10月11月である。守門で1979年11月に観察例がある。

カラス科 CORVIDAE

- 1 2 3. カケス *Garrulus glandarius* (夏鳥・漂鳥・繁殖)
亜種カケス (*G. g. japonicas*) は春、秋ともに集団で移動する。低山帯で普通にみられる。

- 1 2 4. オナガ *Cyanopia cyana* (漂鳥・繁殖)
関東に多い鳥であるが、1960年頃から県内にも分布を広げてきた。

- 1 2 5. ホシガラス *Nucifraga caryocatactes* (留鳥・繁殖)
亜高山帯から高山にかけて生息し繁殖している。秋季には低山帯に移動する。

- 1 2 6. ハシボソガラス *Corvus corone* (留鳥・繁殖)
本来は湿地性の鳥であるが、市内でごく普通に農耕地に生息し繁殖する。上空からクルミを落として割り、食べる学習をした種である。秋季、ねぐらには数百羽集まる。

- 1 2 7. ハシブトガラス *Corvus macrorhynchos* (留鳥・繁殖)
本来は森林性のカラスで尾瀬に生息するのは本種である(東電小屋など)。以前はハシボソガラスより数が少なかったが、近年増加傾向にある。また、ハシボソガラスと混群で生活することもある。

ククイタダキ科 REGULIDAE

- 1 2 8. ククイタダキ *Regulus regulus* (漂鳥)
夏季、亜高山帯の針葉樹林で繁殖し、秋冬季低山帯の杉林などにカラ類と混群を形成する。

シジュウカラ科 PARIDAE

- 1 2 9. コガラ *Parus montanus* (留鳥)
亜種コガラ (*P. m. restrictus*) は、ブナ帯から亜高山の針葉樹林帯に生息する。晩秋から低山帯に飛来してエナガ、シジュウカラ、ヤマガラ、コゲラ

などと混群をつくる。

130. ヤマガラ *Parus varius* (留鳥・繁殖)
ブナやナラ類、杉林のある山地にごく普通に生息している。冬季は他のカラ類と混群をつくる。

131. ヒガラ *Parus ater* (留鳥)
山地のブナ帯から亜高山の針葉樹林に広く生息する。冬季は他のカラ類と混群をつくることが多い。

132. シジュウカラ *Parus major* (留鳥・繁殖)
カラ類中、もっとも普通にみられる種。

ヒバリ科 ALAUDIDAE

133. ヒバリ *Alauda arvensis* (漂鳥・繁殖)
亜種ヒバリ (*A. a. japonica*) は豪雪地の当地では冬季姿はみられない。農耕地や河川敷、スキー場などで繁殖している。

ツバメ科 HIRUNDINIDAE

134. ショウドウツバメ *Riparia riparia* (旅鳥)
秋の渡りの時期に魚野川沿いに南下する。時として数百羽の群れとなる。

135. ツバメ *Hirundo rustica* (夏鳥・繁殖)
亜種ツバメ (*H. r. gutturalis*) は人家の軒先やアーケードなど人通りの多い建造物に営巣する。3月下旬に渡来する。

136. コシアカツバメ *Hirundo daurica* (旅鳥)
夏鳥として海岸沿いの市街地にごく少数繁殖するが、市内では湯之谷・井口新田で春2羽の通過を観察したとの記録がある。(観察年不明・石部)

137. イワツバメ *Delichon urbica* (夏鳥・繁殖)
山地の崖地の他、新しく建設された橋脚やスノージェットなど特に多く集団繁殖する。ツバメより一週間ほど早く渡来する。

ヒヨドリ科 PYCNONOTIDAE

138. ヒヨドリ *Hypsipetes amaurotis* (留鳥・漂鳥・繁殖)

亜種ヒヨドリ (*H. a. amaurotis*) は周年普通にみられるが、渡りの時期には群れで移動し、冬観察される個体は北方からの漂鳥といわれる。

ウグイス科 SYLVIIDAE

139. ウグイス *Cettia diphone* (漂鳥・繁殖)

亜種ウグイス (*C. d. cantans*) は市内に広く分布し、低地から亜高山の山頂近くまで垂直分布が広い種である。停鳴期は遅く、一方冬季は笹やぶなどで地鳴きする。守門山のウグイスには方言がある。

140. ヤブサメ *Urosphena squameiceps* (夏鳥)

夏鳥として低山帯に渡来し、林床部に生息している。

エナガ科 AEGITHALIDAE

141. エナガ *Aegithalos caudatus* (留鳥・繁殖)

亜種エナガ (*A. c. japonicus*) は低山帯に普通に生息する。秋、シジュウカラやヤマガラなどと混群を作り移動するが、その先頭にたつのはエナガである。

ムシクイ科 PHYLLOSCOPIDAE

142. メボソムシクイ *Phylloscopus borealis* (夏鳥)

亜種メボソムシクイ (*P. b. xanthodryas*) は亜高山帯に生息する。亜種コメボソムシクイ (*P. b. borealis*) は旅鳥だが渡りは遅く、里地や低山帯を多数通過していく。

143. エゾムシクイ *Phylloscopus borealoides* (夏鳥)

亜高山の中腹部に多く生息し、特に平ヶ岳や荒沢岳の前岨(まえぐら)に多い。

144. センダイムシクイ *Phylloscopus coronatus* (夏鳥・繁殖)

低山帯の広葉樹林に生息している。

メジロ科 ZOSTEROPIDAE

145. メジロ *Zosterops japonicus* (漂鳥・繁殖)

低山帯に広く生息する。当市内では冬季暖地へ移動し、数は極めて少なく

なる。

センニュウ科 LOCUSTELLIDAE

146. シマセンニュウ *Locustella ochotensis* (旅鳥)

1981年5月守門で観察された。(石部)

ヨシキリ科 ACROCEPHALIDAE

147. オオヨシキリ *Acrocephalus arundinaceus* (夏鳥・繁殖)

夏鳥として河川敷のヨシ原や山地の荒廃田のヨシ原でよく鳴き、繁殖している。

148. コヨシキリ *Acrocephalus bistrigiceps* (旅鳥)

小千谷市や長岡市では夏鳥で繁殖するが、当市では6月上旬に魚野川河畔などに渡ってくるが、すぐ飛去する。渡りの遅い鳥に属する。

レンジャク科 BOMBYCILLIDAE

149. キレンジャク *Bombycilla garrulous* (冬鳥)

冬鳥として少数飛来するが、観察例は多くない。

150. ヒレンジャク *Bombycilla japonica* (冬鳥)

冬鳥として渡来するが、数は年によって変動がある。

ゴジュウカラ科 SITTIDAE

151. ゴジュウカラ *Sitta europaea* (留鳥)

太いブナの林に周年生息する。冬季、低標高地で観察されることもある。

キバシリ科 CERTHIIDAE

152. キバシリ *Certhia familiaris* (留鳥)

1981年10月12日、浅草岳のブナ林で観察。1987年5月31日、奥只見丸山2羽
2012年6月1日干溝で死体。尾瀬では比較的よくみられる。

ミソサザイ科 TROGLODYTIDAE

153. ミソサザイ *Troglodytes troglodytes* (留鳥)

繁殖期は高地の溪流に生息し、冬季は集落人家の軒下などに飛来する。

ムクドリ科 STURNIDAE

154. ムクドリ *Sturnus cineraceus* (留鳥・漂鳥・繁殖)
留鳥であるが、冬季は激減する。秋、大木や送電線に大群をつくる。奥只見でも夏季のみ姿をみせる。

155. コムクドリ *Sturnus philippensis* (夏鳥・繁殖)
4月中旬に飛来し、畑や河原に接する樹木の多い集落で繁殖する。

カワガラス科 CINCLIDAE

156. カワガラス *Cinclus pallasii* (留鳥・繁殖)
市内の上・中流域に周年生息し、冬季は魚野川で多くみられる。

ヒタキ科 MUSCICAPIDAE

157. マミジロ *Turdus sibiricus* (夏鳥)
夏鳥として渡来し、ブナ帯のよく茂った林に生息する。浅草岳の中腹に多い。

158. トラツグミ *Zoothera dauma* (留鳥)
夜行性の鳥であるが、冬季人家に近い生ゴミを捨てた所で餌をあさる姿をみることもある。また柿の熟した実を食べに来る。林内の暗い所にいることが多い。

159. クロツグミ *Turdus cardis* (夏鳥)
飛来は早く4月中旬。よく通る声で杉の梢などでさえずるが、昆虫類を捕食するため、林道や草地の多い森林に生息する。

160. マミチャジナイ *Turdus obscurus* (旅鳥)
秋、浅草岳、平ヶ岳、尾瀬の山地の中腹に渡りの途中で少数みられる。

161. シロハラ *Turdus pallidus* (冬鳥)
冬鳥として渡来し、里地の人家のまわりや林床で採餌する。渡りの時は秋季、浅草岳や守門山のブナ林に数百羽の大群がみられる。

162. アカハラ *Turdus chrysolaus* (夏鳥)
春と秋、低山帯の山麓を通過する。市内では尾瀬ヶ原で夏季よくさえずる。

163. ツグミ *Turdus naumanni* (冬鳥)
亜種ツグミ (*T. n. eunomus*)は冬鳥として飛来するが、最近は数が減少している。春、5月頃まで残る個体もある。亜種ハチジョウツグミ (*T. n. cumomus*)はツグミの群れにまじってキハダの実を食べに来る。
164. コマドリ *Erithacus akahige* (夏鳥)
夏季、平ヶ岳に多く、駒ヶ岳や荒沢岳にも生息する。渡りの時期には里地から低山帯でもみられる。
165. ノゴマ *Luscinia callipe* (旅鳥)
旅鳥として5月と10月市内を通過する。魚野川河畔や里地、丘陵部などいろいろな場所で観察されているが、数は少ない。
166. コルリ *Luscinia cyane* (夏鳥)
夏鳥として亜高山の中腹部のブナ林などに渡来する。駒ヶ岳や荒沢岳には数多く生息する。
167. ルリビタキ *Tarsiger cyanurus* (夏鳥・漂鳥・繁殖)
夏季、平ヶ岳に多く、駒ヶ岳にも生息する。冬季は里地に近い林でもみられる。
168. ジョウビタキ *Phoenicurus aureus* (冬鳥)
冬鳥として人家の庭先や林に渡来する。
169. ノビタキ *Saxicola torquata* (旅鳥)
4月中旬と秋魚野川の河畔の柳やブロックの上から虫をフライングキャッチする姿がみられる。北方へ移動する旅鳥である。
170. イソヒヨドリ *Monticola solitaries* (漂鳥)
県内の岩礁海岸では周年みられるが、1986年冬、1987年秋、1988年3月12日魚野川周辺でみられたが、近年飛来回数がやや増える傾向にある。
171. エゾビタキ *Muscicapa griseisticta* (旅鳥)
秋の渡りの時期に丘陵地で観察される。

172. サメビタキ *Muscicapa sibirica* (夏鳥)
夏季に平ヶ岳、浅草岳など亜高山帯に渡来する。
173. コサメビタキ *Muscicapa dauurica* (夏鳥)
夏鳥として市内の低山に渡来する。近年個体数は減る傾向にある。
174. マミジロキビタキ *Ficedula zanthopygia* (夏鳥)
「知られざる山・平ヶ岳」の調査時、通称「ツガの廊下」で渡部央と石部久が別々に本種を確認した。(1979年)
175. キビタキ *Ficedula narcissina* (夏鳥・繁殖)
夏鳥として低山から山地に渡来する。近年、生息数が増加傾向にある。
176. ムギマキ *Ficedula mugimaki* (旅鳥)
小出・魚野川岸で観察例がある。
177. オオルリ *Cyanoptila cyanomelana* (夏鳥・繁殖)
夏鳥として市内の山地や溪谷に渡来する。

イワヒバリ科 PRUNELLIPAE

178. イワヒバリ *Prunella collalis* (留鳥?)
越後駒ヶ岳の岩場に生息している。冬季は低地に漂行するといわれるが詳しい生態は不明である。
179. カヤクグリ *Prunella rubida* (留鳥?)
高山のハイマツ帯の鳥で平ヶ岳に多く、越後駒ヶ岳にも少数生息する。市内の他の山では1994年5月9日の守門山の例がある。

スズメ科 PASSERIDAE

180. ニュウナイスズメ *Passer rutilans* (夏鳥・繁殖)
夏季、奥只見に多い民宿の屋根で繁殖。他に浅草岳など。秋の渡りには数百羽の群れが小出・魚野川右岸に集まる。
181. スズメ *Passer montanus* (留鳥・繁殖)
人の生活と深く関与しており、集団離村した集落からは姿を消す。近年、奥只見にも夏季分布する。繁殖期を過ぎた幼鳥群はスキー場のススキの原

などに集まる。

セキレイ科 MOTACILLIDAE

182. キセキレイ *Motacilla cinerea* (漂鳥・繁殖)
冬季は極めてまれで漂鳥とみたほうがよい。下越・平野部に比して山地、溪流の多い当地域の方が個体数が多い。
183. ハクセキレイ *Motacilla alba* (留鳥・繁殖)
以前は冬鳥であったが、1983年繁殖を確認。しだいに数を増し、日本特産種のセグロセキレイを圧迫している。亜種ホオジロハクセキレイ (*M. a. leucopsis*) が1988年1月5日堀之内・大石の水田で観察されている。
184. セグロセキレイ *Motacilla grandis* (留鳥・繁殖)
市内の河川中流域に生息する。日本特産種であるが、ハクセキレイの分布拡大にしたがって減少傾向にある。
185. ビンズイ *Anthus hodgsoni* (夏鳥)
亜種ビンズイ (*A. h. hodgsoni*) が亜高山帯(守門岳、奥只見丸山など)の草原で繁殖する。春と秋の渡りの時期にはスキー場などの草原で採餌する。
186. タヒバリ *Anthus spinoletta* (冬鳥)
冬鳥として農耕地に多くの場合、単独で飛来する。

アトリ科 FRINGILLIDAE

187. アトリ *Fringilla montifringilla* (冬鳥)
冬鳥として大群で山地の杉林に渡ってくる。渡来数は年によって大きな変動がある。2012年4月15日には1000羽(+)の大群が北上した。浅草岳、守門山には10月中旬に渡来する。厳冬期にはまれ。
188. カワラヒワ *Carduelis sinica* (留鳥・繁殖)
亜種カワラヒワ (*C. s. minor*) は周年みられるが、厳冬期には姿を消す。秋、餌を求めて河原やスキー場の草むらに群れる。
189. マヒワ *Carduelis spinus* (冬鳥)
冬鳥として渡来し、低山帯の杉林を大群で移動する。

190. ベニヒワ *Carduelis flammea* (冬鳥)
 数の少ない冬鳥として里地に渡来するが、年によって変動の差が大きい。
 1978年1月に小出・青島で8羽の群れがみられた。
191. ハギマシコ *Leucosticte aretoa* (冬鳥)
 冬鳥として里地に渡来するが、年によって変動の差が大きい。キハダの実
 を食べに100羽(+)で飛来した年もある。
192. ベニマシコ *Uragus sibiricus* (冬鳥)
 冬鳥として低山帯や里地の枯草に渡来するが、数は多くない。
193. オオマシコ *Carpodacus roseus* (冬鳥)
 市内では2000年1月20日、キハダの木に1羽飛来したことがある。
194. ウソ *Pyrrhula pyrrhula* (漂鳥・繁殖)
 亜種ウソ(*P. p. griseiventris*)は1500mぐらいの亜高山帯に生息する。(平
 ケ岳、越後駒ヶ岳など)冬季は低地に漂行し、公園のソメイヨシノのつぼ
 みを食害するが、小雪年は低山帯上部で採餌するので被害は少ない。亜種
 アカウソ(*P. p. rosacea*)は冬鳥として少数ウソに混じって観察される。
195. シメ *Coccothraustes coccothraustes* (漂鳥)
 春、秋の渡りの時期の他、冬もみられる。1984年5月12日の観察例がある
 他、1967年7月信州大学、羽田らが平ヶ岳で観察した。
196. イカル *Eophona personata* (漂鳥・繁殖)
 夏季、低山帯に生息するが、冬季は姿がみられない。

ホオジロ科 EMBERIZIDAE

197. ホオジロ *Emberiza cioides* (漂鳥・繁殖)
 低山帯から里地、また山地でごく普通にみられる。豪雪地の当市内では地
 上採餌の本種は無雪地へ移動するが、少しでも暖かくなるとすぐに戻って
 くる。
198. ホオアカ *Emberiza fucata* (漂鳥・繁殖)
 市内では尾瀬ヶ原に生息する。冬季は暖地へ移動する。

199. カシラダカ *Emberiza rustica* (冬鳥)
 秋季、冬鳥として平地から山林に多数飛来するが、積雪期は暖地へ移動し、春季にふたたび多数姿をみせる。旅鳥に近い。
200. ミヤマホオジロ *Emberiza elegans* (冬鳥)
 低山帯のほか、奥只見など山地で見られるが数は少ない。
201. ノジコ *Emberiza sulphurata* (夏鳥)
 魚沼地方は県内でも生息密度が高く、国内の代表的生息地とされる。なだれ地形の斜面と結びついて生息する傾向がある。
202. アオジ *Emberiza spodocephala* (夏鳥・漂鳥)
 夏季、亜種アオジ(*E. s. personata*)が尾瀬ヶ原で繁殖する。里地や低山帯では春、秋の渡りの時期に姿がみられる他、厳冬期にもまれにみられる。
203. クロジ *Emberiza variabilis* (夏鳥・繁殖)
 標高800mから1500mあたりの山地の林に生息する。守門の鞍掛峠や奥只見の荒沢岳中腹で見られる。未丈ヶ岳や駒ヶ岳や平ヶ岳で営巣を確認。
204. オオジュリン *Emberiza schoeniclus* (旅鳥)
 1993年4月3日、小出魚野川(桑原哲)。2012年10月28日魚野川で確認された。

引用文献

- 日本鳥類目録 改訂第7版 日本鳥学会(2000)
- フィールドガイド 日本の野鳥 増補改訂版 財団法人 日本野鳥の会(2007)
- 新潟県鳥類図鑑 本間義治監修 新潟日報事業社(1981)
- 野鳥新潟 新潟県野鳥愛護会
- 雪国の鳥を訪ねて 日本野鳥の会 新潟県支部編 新潟日報事業社(1997)
- レッドデータブックにいがた 新潟県(2001)
- 越後三山奥只見自然公園学術調査報告書(1968)
- 知られざる山平ヶ岳 北魚沼地区理科教育センター(1980)
- 越後駒ヶ岳の鳥類 北魚の自然と理科教育第6号(1979)
- 成田山鳥獣保護区の鳥類 北魚の自然と理科教育第7号(1980)
- 夏鳥はいつ渡ってくるか 北魚の自然と理科教育第8号(1981)

破間川流域の鳥類 北魚の自然と理科教育第9号(1982)
佐梨川流域の野鳥 北魚の自然と理科教育第9号(1982)
新潟県湯之谷村の野鳥 北魚の自然と理科教育第10号(1984)
野鳥の種類と数は季節によってどのように変化するか 北魚の自然と理科教育第14号(1987)
平ヶ岳の鳥類 野鳥新潟 第53号(1982)
北魚沼郡の鳥類リスト 1995年3月改訂版(1995)
小出野鳥の会員のフィールドノート 桑原和寿、桑原景子、佐藤武、角屋禮士、柳瀬昭彦
日本野鳥の会 新潟県支部報 野鳥だよりの記録
緑の年2011 魚沼市植物相調査 魚沼市 (2012)

情報提供者

池田修、小澤文雄、桑原哲哉、桑原民生、小林武士、本田智明、酒井栄子
広井美智子、深沢和基、南マサイ、渡邊央

